

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2024~2025

国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

12月中旬~1月中旬

--- 季節のおすすめ散策コース (ゆっくり歩いて1時間)
- - - おてがるコース (ゆっくり歩いて30分)



いきもの



オオムラサキ(タテハチョウ科)
冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。



ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)
成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起は3対です。



ツグミ(ツグミ科)
夏になると鳴き声が聞こえなくなる(口をつくむ)ことが名前の由来といわれていますが、実際は冬になると日本に飛んでくる冬鳥です。



ジョウビタキ(ヒタキ科)
橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。



ルリビタキ(ヒタキ科)
青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。



ヤマコウバシ(葉)(クスノキ科)
葉は枯れても枝に残り、落ちないので受験のお守りにもされています。



小野新池(カモなどの水鳥)



ヤブコウジ(実)(サクラソウ科)
別名「十両」。「千両」や「万両」と並んで、縁起物としてお正月飾りによく使われます。



アキグミ(実)(グミ科)
秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。



モチツツジ(紅葉)(ツツジ科)
名前の由来は、花芽をさわると粘ることから藍那ではモチバナとも呼ばれます。冬の紅葉も美しい木です。



ヤブツバキ(ツバキ科)
ツバキには様々な種類がありますが、自生のツバキといえはヤブツバキのこと。メジロが蜜を吸いにやってくることもあります。



ソヨゴ(実)(モチノキ科)
風に葉がそよ音から、ソヨゴという名がついたそう。また、火であぶると葉が膨らんで音を立てて破裂することから、別名「フクラシ」とも言われます。



切通し東側の草地(ティピの風景)



ススキ(イネ科)
秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。



ヒガンバナ(葉)(ヒガンバナ科)
花は秋の彼岸の頃に咲きますが、葉は花が枯れた後、晩秋~春先までの間見られます。そして、翌年に花が咲く頃には葉はすでに枯れています。



アオキ(実)(アオキ科)
名前の由来は、葉も枝も「あおい」木だから。街中でも、葉が斑入りの物がよく植えられます。



ナズナ(アブラナ科)
春の七草の一つ。茎からのびる果実の部分がかわいいハート型をしています。その形が三味線のバチにみえることから「ヘンヘン草」とも呼ばれます。